成分は K ＋ 黄色, P ＋ 赤褐でスチクチン酸と考へられる。これを根拠として東南アジア及オセアニア地方の採集品を調べた結果多数の標本が *U. leucospilodea* Nyl. である事を知った。

○ヒゴキケマン (大井次三郎) Jisaburo OHWI: *Corydalis heterocarpa* var. *Simadae* Ohwi

熊本市の島田弥市氏から送られたキケマンは果期のもので, わずかに残りの花がついている。種子の表面の細胞はキケマンと相違して突起がなく, 同心状に規則正しくならんだ細胞の左右の隣接する部分が凹んでいて, 丁度シマキケマンの種子を思はせる模様になっている。またこれに関係して, 台湾や南西諸島西南部に分布するナンゴクキケマンは, 表面の細胞がレンズ形に隆起する点で同一ではない。しかしこれらのことから考えるとキケマン類の種子の表面の模様は地理的なちがいはあっても種としての特徴にはなり得ないと考へられ, 両植物ともキケマンの変種として取扱いたい。

Corydalis heterocarpa Sieb. et Zucc. var. **Simadae** Ohwi, var. nov.— Capsulae late lineares non torulosae; semina cellulis extimis utrinque latere depressis minute puncticulata, non papillosa.

Hab. Kyushu: Prov. Higo: Littore Kawachi in Kawachi-yoshinomura, leg. Y. Simada, June 5, 1968, n. 14642. TNS.

Nom. Japon.: Higo-kikeman.

Corydalis heterocarpa Sieb. et Zucc. var. **Koidzumiana** (Ohwi) Ohwi, comb. nov.—*Corydalis Koidzumiana* Ohwi, in Fedde Repert. **36**: 50. 1934.

Nom. Japon.: Nangoku-kikeman.

□日本植物調節剤研究協会: **日本原色雑草図鑑** B5 判 334 頁, 全国農村教育協会発行, 6,800 円。畑や水田の雑草 335 種について, その幼形, 生育期, 花期のカラー写真と, 全形, 芽生, 種子などの図が画かれ, それぞれの種類の特徴をとらえた記載と生活型の表示がのせられている。第二章では外見的に類似しているものの区別を明らかにし, 第三章で生活型を解説している。第四章では各府県に於る主な雑草の消長の時期を表示している。植物の名を知らない全くの素人でも, 野外でよく観察していさえすれば名がわかるように, 細かな注意がはらわれている。除草剤の役割が大きくなるにつれ, その基礎として雑草の知識が必要とされる。本書はその第一歩として作られたものであるが, その方面だけでなく専門学者からアマチュアに至る各方面の人にも色々の利用価値のある内容である。ただ初めにある科の解説は誤りもあり, なくもがなの部分である。 (山崎 敬)